



ドミニカ共和国のビーチに漂着し、波打ち際を覆い尽くすサルガッサム（同和ライン提供）



政府・JICA
撤去や処理支援

車両を無償資金協力の形で
提供している。

JICAも、処理や有効
活用につながる国内企業
の技術を調査。25年度以降
は、日本政府が2020年度から、ドミニカ共和国や
グレナダ、トリニダード・
トバゴなどに撤去・運搬用
食料や肥料の多くを輸入

サルガッサムの漂着量や
範囲は毎年変動するが、国
際協力機構（JICA）の
リポートでは、2022年
6月には、大西洋全域の沿
岸部で計2400万t超の
漂着を観測。深刻な社会問
題となっている。

現地でも堆肥化は行われ
ているが、微生物の働きで
有機物を分解・発酵させる
ため時間がかかるのが難点
だ。これを解決するため、
大津市の環境機器開発会社
「WEF技術開発」の技術
が使われる。

同社は10年ほど前から、
琵琶湖で駆除されたコカナ
ダモなど大量の水草の堆肥
化にかかる時間の短縮を研
究。約5年前、他の物質と
反応しやすい「活性酸素」
で有機物を分解する「促進
酸化処理」を用いる方法を

現地で近く導入

琵琶湖に繁茂する水草を短期
間で堆肥化する新技術が、大西
洋や中米カリブ海で大量発生し
ている海藻「サルガッサム」
の処理に活用されることになっ
た。従来の方法では年単位の時
間かかるが、新技術なら10日
間程度で処理できるという。現
地では観光や漁業に打撃を与え
ており、ドミニカ共和国で近く
導入される。

（大津支局 矢野彰）

■ サルガッサム 根を張らず、塊
となって海に浮遊するホンダワ
ラ属の海藻。2011年頃から大西洋で
大量発生し、メキシコやドミニカ共
和国、グレナダなどのビーチに漂着
するようになった。腐って悪臭を放
つほか、海面をマットのように覆う
ため、海中の酸素濃度が低下し、魚
の産卵場所になる藻場が枯れる影響
も出ている。



サルガッサム 海藻の堆肥化 時間短縮

す効果が確認されたとい
う。

促進酸化処理は、焼却灰
に残るダイオキシンなどの
分解にも使われ、龍谷大の
岸本直之教授（水質システ
ム工学）は「本来は有害物
質の分解に使う手法だが、
促進酸化処理なら短時間で
堆肥化が可能だ」と話す。

この手法に目をつけたの
が、カリブ海などで事業を
展開する海運会社「同和ラ
イン」（東京）だ。7月末、
ドミニカ共和国からサルガ
ッサム約50tを取り寄せ、
WEF社に持ち込んで堆肥
化を実験。塩分を含む海藻
では初の試みだったが、2
時間程度で活性酸素による
分解が進み、8日間で堆肥
が完成した。

立命館大学などの研究機
関で分析すると、リンや窒
素などを含み、「土壤改良
材として適している」との
お墨付きをもらつた。WE
F社の青山章社長は「琵琶
湖で生まれた技術が、地球
の裏側で役立つならうれし
い」と話している。

滋賀県内の農家が野菜など
とで、堆肥化に要する期間
(2~3年)を10日程度に
縮めた。完成した堆肥は、
ギヤダイコンの収量を増や
す効果が確認されたとい
う。

立命館大学などの研究機
関で分析すると、リンや窒
素などを含み、「土壤改良
材として適している」との
お墨付きをもらつた。WE
F社の青山章社長は「琵琶
湖で生まれた技術が、地球
の裏側で役立つならうれし
い」と話している。

に頼る現地の食料自給率向
上にもつながり、JICA
中米・カリブ課の担当者は
「農業・食料生産の増加
につながれば、持続的な経
済発展に貢献できる。堆肥
化は実現可能性が高く、事
業化を検討したい」として
いる。